

『手抜きと手のかけすぎ』の シンポジウムに参加して

中央家庭教育学級生 沢本 恭子

今年九月に開設された市の中央家庭教育学級に通い始めて三回目の私が、十一月十九日に高知市で開かれた『手抜きと手のかけすぎ』のテーマのシンポジウム（原教委主催）に参加することができました。

初めての機会でしたが、自分の課題も持つことができましたし、「子育ては手抜きのできない戦争」とも痛感したことでした。今、子供の生活が危ないと叫ばれ、三無主義（無気力、無責任、無関心）に象徴される子供たちの生活については、大人の責任との認識、危機感を持ったことでした。「三つ子の魂百までも」のこと

わざにはたくさんさんの意味が含まれているように思われます。子供を育てる責任はもちろん両親にありますが、わけても母親の影響がとても大きなものであるとの認識を改めて学びました。

過保護は手抜きであるとの指摘もあり、いささかびつくりもしましたが、しつても含めて押しつけではだめだとの思いを身をもつて感じたことでした。「なんでそんなことがうどうして？」と、聞く耳を持たない恥ずかしい母親を自分を感じ、顔から火の出るような思いでした。

でも、いろいろのお話を聞かしていただくなかで今日からでも決して遅くなく、要は子供のやる気を育てること、そしてやる気を起こさせるにはどうすればよいのか親の役割は何でどこまでかを明らかにし、実践していくことなのだと思います。

輝かしい次の世代づくり、子供たちへの確かな未来の保障は、私たち親の責任でありますとともにこれから親になる人、更には県民みんなの課題であると思います。

子供の心身が豊かにはぐくまれ時代に豊かに対応できる人間として成長し続けるために、みんなが今一度家庭教育の重要性を考え直すべき時期にきたと考えますが、どうでしょうか。

—— 同和教育シリーズ ——

豊かな学力を身につける

学校の同和教育で力を入れていくことは、自らの将来を切り開き、生き抜くための『豊かな学力を身につける』ことを一つの具体的な内容としています。

これは、差別の現実を正しく捕らえ（差別を見抜き、差別を許さない人間になるためにも、その前提として学力の向上は極めて重要なことだからです。

このことは、同和教育が同和問題を一目も早く解決していくためには、まず第一に同和地区の子供の進路を保障していくことであるという観点から始まっています。

同和地区の人々は、今日まで部落差別によって主要な産業で働くことを妨げられ、不安定な生活に余儀なくされてきました。そのため子供たちは、教育を受ける機会を奪われ、能力をじゅうぶんに伸ばすことができませんでした。

このことがまた、親や子供の願っている職業に就くことを困難にし、生活をよりいっそう不安定にするという結果を招いていたのです。

こうした悪循環を断ち切り、同和地区の子供たちに教育と就職の機会を完全に保障していくことが

大切な課題のひとつなのです。

このことは、単に地区の子供たちだけではなく、いろいろな原因によって恵まれない状況に置かれているために全面発達が妨げられている子供たちにも目を向け、手を差し伸べることになり、更にはすべての子供や親たちの願いにこたえる教育にもなるのです。

次に、被差別の立場にある仲間の問題をみんなのものとして解決できる集団を作ることも大切な営みの一つです。

同和問題を解決するには、決して一人ではできません。

そこで学校では、さまざまな問題に集団で取り組み、解決させることによって協力し合い、閉結することのたいせつさを体を通して自覚させようとしています。

例えば、学級会活動の場合などで一人一人の悩みや苦しみを出し合うなかで、みんなで力を合わせて解決することのたいせつさを理解させ、苦しんでいる仲間の心の痛みがわかる人間を育てることに力をそそいでいるのです。

このような取り組みによって、一人一人の子供の人間性が大事にさ

れ、個性がより豊かに伸ばされ、手をつなぎ連帯の力で問題を解決しようとする集団に変わってくるのです。この教育の営みが徹底すれば、一人の不利益も自分たちの問題として取り組む子供ができて、いじめや仲間はずれもなくなり、同和問題を自らの課題として取り組む力を育てることができるようになります。

また、その他には同和問題の本質や実態を科学的に認識理解させ、人間としての願いや要求を大切にすると人権意識を育てたり、人権を大切にし部落差別をはじめあらゆる差別を許さない実践力を持った人間を育成することも、学校での同和教育の大事な具体的な内容です。

最後に、同和教育は何も特別な教育ではなく、教育の基本ともいえるべき教育であるということを、ご理解していただければと思います。

（六十一年度人権標語より）

○よい子ども いじめはしない

君と僕

長岡小四年 細木みさ

○忘れるな 差別をにくむ その気持ち

長岡小五年 秋山真貴子

○育てよう 差別見つける たしか

菅ヶ池中一年 前岡孝枝